

# بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

アッラーは私たち人間のドゥンヤー（現世）とアーヒラ（来世）の成功と  
幸せを、ディーン（宗教）の中に入れられました。そしてムハンマド（サッ  
ラッラーフ アライヒ ワサッラム）がアッラーの御許からもたらされた  
イスラームのディーンは、私たちの生活すべてを包括する完成された最後の  
ディーンです。

サハーバ（教友たち）（ラディヤッラーフ アンフム）は預言者（サッラッ  
ラッラーフ アライヒ ワサッラム）の時代にイスラームを受け入れ、彼と共に  
イーマーン（信仰）とアマール（行い）の努力をしながら、自分たちの生  
活に完全なディーンを取り入れ、それを人々に広めた最初で最良のムスリ  
ムです。アッラーは彼らに喜ばれ、彼らを私たちにとっての見本となされま  
した。彼らにはたくさんの良い性質がありましたが、その中でもこれらの6  
つは、一人一人のサハービー（教友）が持っていた基本的な性質です。で  
すから私たちがこれら6つの性質を取り入れる努力をすれば、それを通し  
て完全なディーンを守ることが簡単になるでしょう。

## 1. カリマ・タイバ

### لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ مُحَمَّدٌ رَّسُولُ اللَّهِ

最初はカリマ “ラーイラーハイッラッラー” のヤキーン（確信）です。

#### 意味と目的

i) ‘ラーイラーハイッラッラー’ は「アッラーの他には何の神もない。」と  
いう意味です。そしてその実際の意味は「アッラーは何の力と助けもなしに

なんでもできますが、アッラー以外のものはアッラーの力と助けなしには何もできない。」ということです。このカリマの目的は私たちの心のヤキーンを直すことです。つまり私たちは「これがあれば助かる。」とか「あればあれば成功する。」などという被造物に対する間違っただけのヤキーンを心の中から取り除き、「成功も失敗も、良いことも悪いことも、すべての状況はアッラーからのものです。」というアッラーのみに対する正しいヤキーンを取り入れなければなりません。アッラーはあらゆる物の創造者であると同時に、その中で起きるあらゆる状況の創造者でもあります。実際にかれ以外のものはすべて被造物であり、作られたものは自分では何も作り出すことはできません。その反面アッラーは唯一の創造者であり、かれは何にも頼らずにすべての物と状況を御自分の望み通りに作り出すことができるのです。例えば薬は作られた被造物であり、アッラーの意志と力なしには私たちが治すことはできません。そしてアッラーは全能の創造者であり、かれは薬なしでも私たちが治すことができるのです。

またクルアーンの中では預言者イブラーヒーム（アライヒッサラム）が大きな火に放り込まれた時の話や、預言者ムーサー（アライヒッサラム）が海とフィルアウンの軍隊にはさまれた時の話がありますが、これらはこのカリマのヤキーンを教えるためのものです。アッラーは失敗や屈辱の状況の中でも成功と栄誉を与えることができ、また逆に成功や栄誉の状況の中でも失敗や屈辱を与えることができるのです。私たちの生と死はアッラーの御手の中にあり、その間に起きるすべての出来事も、かれの絶対の意志と力によって作り出されるものです。そして私たち被造物は皆集まっても、かれの決断を変えることも止めることもできません。私たちはただ自分たちのイーマーン（信仰）とアアマール（行い）をこのカリマの通りに正していくことで、アッラーから成功と幸せに導かれることができるのです。そうしなければどんなに物やお金があっても、私たちはアッラーの意志と力に逆らって成功と幸せを手にすることはできません。

「誰でも善行に励む者には、男でも女でも、それが信者であるならば、われは必ず（現世で）幸せな人生を送らせ、彼らが行った善行の代わりに、彼らに（天国の）報奨を与えるであろう。」（蜜蜂章 16 : 97）

## 徳

イフラス（心の純粋さ）をもってこのカリマを唱えれば、その人の過去の罪はすべて許されます。そして私たちがこのカリマの通りに心のヤキーンを正せば、一番小さなイーマーン（信仰）に対して、この現世の10倍の天国が与えられます。

つぎ次にカリマの2つ目の部分“ムハンマドゥン ラスールラー”です。

## 意味と目的

ii) また‘ムハンマドゥン ラスールラー’は「ムハンマド（サッララーフ アライヒ ワサッラム）はアッラーの使徒である。」という意味です。成功や失敗、良いことや悪いこと、すべての状況はアッラーが御自分の意志と力で作り出すものであり、私たちはムハンマド（サッララーフ アライヒ ワサッラム）のスナ・タリーカ（人生の送り方）を通してのみ、アッラーからの成功や助けを得ることができるのです。そして彼の教えられたアマーラ（行い）なしには、どんなにお金や物や権力があっても、私たちは決して成功と幸せを手にすることはできません。つまり成功はアッラーの御許にあり、アッラーはお金や物を通してではなく、ムハンマド（サッララーフ アライヒ ワサッラム）の道を通してのみ、私たち人間に成功と幸せを与えてくれるのです。例えばピラール（ラディヤッラーフ アンフ）は奴隷で何も持っていませんでしたが、預言者様に従ったために、アッラーから成功と栄誉に導かれました。その反面アブー・ジャハルやアブー・ラハブは預言者様の親戚でしたが、彼の教えに従わなかったために、失敗と屈

尋<sup>じよく</sup>をこうむりました。このカリマの目的<sup>もくてき</sup>は、ムハンマド（サッラッラフ アライヒ ワサッラム）のスンナ・タリーカ<sup>とお</sup>を通して<sup>せいこう</sup>もたらされる成功へのヤキーン<sup>わたし</sup>を私たちの心<sup>こころ</sup>の中に作り、それを私たちの生活<sup>なかつく</sup>の中に完全に<sup>わたし</sup>取り入れ<sup>せいかつ</sup>ることで<sup>なかつく</sup>す。

「あなたがたにはアッラーの使徒<sup>しと</sup>（サッラッラフ アライヒ ワサッラム）<sup>なか</sup>の中に立派な模範<sup>りっぱ</sup>がある。特にアッラー（との会見<sup>ちかひ</sup>）と終末の日<sup>しゅうまつ</sup>を期待<sup>ひ</sup>し、アッラー<sup>おほ</sup>を多く<sup>ねん</sup>念<sup>もの</sup>じる者<sup>もの</sup>にとって。」（部族連合章<sup>ぶぞくれんごうしょう</sup>33：21）

## 徳

預言者<sup>よげんしやさま</sup>様はこう言<sup>い</sup>われました。「誰<sup>だれ</sup>でも私のスンナ<sup>わたし</sup>を蘇<sup>よみがえ</sup>らせた人は、私<sup>わたし</sup>を愛<sup>あい</sup>します。そして誰<sup>だれ</sup>でも私<sup>わたし</sup>を愛<sup>あい</sup>する人は、天国<sup>てんごく</sup>で私<sup>わたし</sup>と一緒に<sup>いっしょ</sup>になるでしょう。」またこのウンマ<sup>きょうどうたい</sup>（共同体）が腐敗<sup>ふはい</sup>した時代<sup>じだい</sup>に、預言者<sup>よげんしやさま</sup>様のスンナ<sup>よみがえ</sup>を蘇<sup>よみがえ</sup>らせる人<sup>ひと</sup>には、シャヒード<sup>じゆんぎやうしや</sup>（殉教者<sup>ほうしやう</sup>）の報奨<sup>ほうしやう</sup>が与<sup>あた</sup>えられます。

## このカリマの現実を取り入れるために、

①ダアワ：自分のイーマーン<sup>じぶん</sup>を強<sup>つよ</sup>めるために、アッラーの偉大<sup>いだい</sup>さ、イーマーン<sup>かん</sup>に関する預言者<sup>よげんしや</sup>たちやサハーバ<sup>はなし</sup>の話、カリマとスンナ<sup>とく</sup>の徳<sup>たいせつ</sup>や大切<sup>たいせつ</sup>さなどを他<sup>ほか</sup>の人<sup>ひと</sup>たちに伝<sup>つた</sup>えます。またクルアーンとハディース<sup>おし</sup>で教<sup>おし</sup>えられているイーマーン<sup>とくしつ</sup>の特質<sup>まな</sup>を学<sup>まな</sup>んで、それら<sup>じぶん</sup>を自分<sup>なか</sup>の中に生<sup>う</sup>み出すために他<sup>ほか</sup>の人<sup>ひと</sup>たちに伝<sup>つた</sup>えます。

\* ‘イーマーン<sup>とくしつ</sup>の特質<sup>まな</sup>’ とは、例<sup>たと</sup>えば「信者<sup>しんじや</sup>とは集<sup>しゅうちゆう</sup>中<sup>ちゆう</sup>して礼拝<sup>らいはい</sup>を行う者<sup>もの</sup>たち。かれらは無駄<sup>むだ</sup>話を<sup>はなし</sup>を避<sup>さ</sup>ける。彼<sup>かれ</sup>らは地上<sup>ちじやう</sup>（道路<sup>どうろ</sup>）を謙虚<sup>けんきよ</sup>に落<sup>おち</sup>ち着<sup>つ</sup>いて歩<sup>ある</sup>く。信者<sup>しんじや</sup>は嘘<sup>うそ</sup>をつか<sup>つか</sup>ない。信者<sup>しんじや</sup>は人<sup>ひと</sup>をだま<sup>だま</sup>さない。信者<sup>しんじや</sup>なら、良<sup>よ</sup>いこと<sup>よろこ</sup>をして喜<sup>よろこ</sup>び、悪<sup>わる</sup>いこと<sup>わる</sup>をして悲<sup>かな</sup>しむ。」など、クルアーンとハディース<sup>なか</sup>の中でアッラーと預言者<sup>よげんしや</sup>（サッラッラフ アライヒ ワサッラム）が教<sup>おし</sup>えられた、いわゆる信仰<sup>しんこう</sup>の証<sup>あかし</sup>のことです。

②練習：被造物を通してアッラーの偉大さを思い、それを心に反映します。

③ドゥアー：アッラーにイーマーンの現実を、またアッラーの命令と預言者様のスンナの通りに生活できるタウフィーク（助けと導き）を求めます。

## 2. サラート（礼拝）

### 意味と目的

アッラーの命令の中で一番大切なものはサラートです。アッラーはすべての命令を、大天使ジブリール（アライヒッサラム）を通して下されましたが、サラートに関してはミアラージュ（昇天）の夜にムハンマド（サッラフ アライヒ ワサッラム）を御自分の許へ呼ばれて、直接彼に与えられました。アッラーは一日5回のサラートをどんな状況でも‘確立’するように命じられ、それをきちんと守ることが私たちの信仰の証となるのです。ですから私たちは心身共に集中してサラートを行わなければなりません。そして復活の日に人間の行いの中で最初に清算されるものはサラートです。もしそれが正しければ、残りの行いも正しくなり、もしそれが乱れていれば、残りの行いも乱れてしまいます。

サラートの目的の一つは、それを通してアッラーの助けを得ることです。アッラーはクルアーンの中で、サブル（忍耐）とサラートを通してかれに助けを求めるように命じられています。またハディースの中でサラートが‘信者のミアラージュ（昇天）’と言われているように、私たちはサラートを通して直接アッラーにお願いすることができるのです。そしてあらゆる状況の中でそうしていくことが、アッラーの御喜びにも繋がります。

またサラートのもう一つの目的は、私たちがサラートの中で、アッラーの命令を預言者様のスンナ（やり方）の通りに、アッラーを念じながら満たしていくように、サラートの外の生活でもそうしていくことです。例えばサ

ラートの中で視線や手足の位置、ルクーウ（立礼）やサジダ（ひれ伏）で言う言葉などが決められているように、私たちはサラートの外でも、一つ一つのおこななかでアッラーの命令と預言者様のスナを満たしていかなければなりません。サラートはその訓練であり、私たちのサラートが正しくなれば、サラートが私たちの生活を正してくれます。またそうしたサラートに対して、アッラーは私たちのドゥアーを受け入れ、私たちの罪を許し、私たちの人生を祝福してくれます。

「サラートは信者たちに対して時間と共に定められた義務である。」  
(婦人章4：103)

## 徳

預言者様はこう言われました。「天国の鍵とはサラートであり、サラートの鍵とはウドゥー（清め）です。」（ムスナド・アフマド）

「アマーナ（信頼）のない者には、（完全な）イーマーン（信仰）もありません。またウドゥー（清め）のない者には、サラート（礼拝）もありません。そしてサラートのない（行わない）者には、ディーン（宗教）もありません。ディーンにおけるサラートの地位とは、体における頭の地位なのです。（つまり頭なしには人間が生存できない様に、サラートなしにはディーンは存在できません。）」（タバラーニー、タルギーブ）

## サラートの現実を取り入れるために、

①ダァワ：自分のサラートを強めるために、サラートの大切さやその徳、サラートに関する預言者様とサハーバの話などを他の人たちに伝えます。

## ②練習：

i) 外面：預言者様はハディースの中で「あなたたちは、私がサラートをす

るのを見たように、サラートを<sup>おこな</sup>行いなさい。」と言われました。ですから<sup>わたし</sup>私たちは<sup>きよ</sup>清めからサラートの<sup>お</sup>終わりまでの<sup>ひと</sup>一つの<sup>ひと</sup>行いを<sup>おこな</sup>預言者様の<sup>よげんしゃさま</sup>スナナの<sup>とお</sup>通りにし、そのために<sup>がくしゃ</sup>ウラマー（学者たち）から<sup>な</sup>マサーイル（イスラーム法に関する知識）を<sup>な</sup>学ばなければなりません。またその中には<sup>な</sup>クルアーンの<sup>どくしょう</sup>誦讀を<sup>ただ</sup>正すことも<sup>ふく</sup>含まれています。

ii) 内面<sup>ないめん</sup>；最初<sup>さいしょ</sup>から<sup>さいご</sup>最後まで<sup>ねん</sup>アッラーだけを<sup>ささ</sup>念じて<sup>とりよく</sup>サラートを<sup>な</sup>捧げる<sup>たか</sup>努力を<sup>たか</sup>します。そのために<sup>にんい</sup>ナフル（任意）の<sup>な</sup>サラートで、<sup>なが</sup>長い<sup>な</sup>キラート（クルアーンの<sup>どくしょう</sup>誦讀）や<sup>りつれい</sup>ルクウ（立礼）や<sup>ふ</sup>サジダ（ひれ伏）を<sup>おこな</sup>行い、<sup>しゅうちゅうりよく</sup>集中力を<sup>たか</sup>高める<sup>れんしゅう</sup>練習を<sup>い</sup>します。またそれぞれの<sup>い</sup>位置で<sup>ち</sup>最低でも<sup>さいてい</sup>3回「<sup>かい</sup>アッラーが<sup>わたし</sup>私を<sup>み</sup>見ている。」と<sup>ねん</sup>念じます。

iii) いつでも<sup>なん</sup>何でも<sup>ひつよう</sup>必要な<sup>たいへん</sup>ことや<sup>ひと</sup>大変な<sup>もの</sup>ことが<sup>む</sup>あれば、<sup>ひと</sup>すぐに<sup>もの</sup>人や<sup>む</sup>物に向かうのではなく、<sup>なん</sup>サラートと<sup>なん</sup>ドゥアーを<sup>おこな</sup>何度も<sup>ねが</sup>行って、<sup>もと</sup>アッラーに<sup>わたし</sup>願い<sup>わたし</sup>求めるように<sup>わたし</sup>します。

③ドゥアー：<sup>とりよく</sup>サラートの<sup>つづ</sup>努力を<sup>しぶん</sup>続け、<sup>しぶん</sup>それでも<sup>しぶん</sup>自分の<sup>しぶん</sup>サラートが<sup>しぶん</sup>アッラーの<sup>おのぞ</sup>御望みの<sup>とお</sup>通りではないことを<sup>おも</sup>思いながら、<sup>げんじつ</sup>アッラーに<sup>ちと</sup>サラートの<sup>ちと</sup>現実を<sup>ちと</sup>求めます。

### 3. イルム（知識）と ズィクル（アッラーの唱念）

<sup>わたし</sup>私たちの<sup>せいかつ</sup>生活を<sup>めいれい</sup>サラートの<sup>めいれい</sup>ように、<sup>めいれい</sup>アッラーの<sup>めいれい</sup>命令と<sup>めいれい</sup>ムハンマド（<sup>めいれい</sup>サラッラフ <sup>めいれい</sup>アライヒ <sup>めいれい</sup>ワッサラム）の<sup>めいれい</sup>スナナの<sup>めいれい</sup>通りにし、<sup>めいれい</sup>アッラーの<sup>めいれい</sup>意識に<sup>めいれい</sup>満ち<sup>めいれい</sup>あふれた<sup>めいれい</sup>ものにする<sup>めいれい</sup>ためには、<sup>めいれい</sup>イルムと<sup>めいれい</sup>ズィクルが<sup>めいれい</sup>必要<sup>めいれい</sup>です。そうすれば<sup>めいれい</sup>私たちの<sup>めいれい</sup>行い<sup>めいれい</sup>すべてが<sup>めいれい</sup>アッラーの<sup>めいれい</sup>イバーダ（<sup>めいれい</sup>崇拜）となる<sup>めいれい</sup>のです。また<sup>めいれい</sup>そう<sup>めいれい</sup>しなければ<sup>めいれい</sup>大きな<sup>めいれい</sup>イバーダも<sup>めいれい</sup>無駄<sup>めいれい</sup>になって<sup>めいれい</sup>しまいます。



## イルム (知識)

### 意味と目的

あらゆる状況の中で、アッラーが何を求めているのか、そしてその命令を満たすための預言者様のスンナ・タリーカ（方法）が何かを知ることがイルムです。イルムには2種類あります。

i) マサーイルのイルム；これはハラール（合法）・ハラーム（非合法）、サラートやハッジ（大巡礼）などのやり方、人間関係や金銭関係などに関わるシャリーア（イスラーム法）の知識です。これはウラマー（学者たち）から聞いて学びましょう。

ii) ファザーイルのイルム；預言者様は良い行いに対するアッラーからの報奨や、悪い行いに対するアッラーからの罰を教えられました。私たちの心の中にこれらの約束へのヤキーン（確信）を作り出すために、タァリームのハルカ（勉強会）に参加して学びましょう。

「あなたがたが知らないのなら、知識を持つ者たちに尋ねなさい。」  
(蜂蜜章 16 : 43)

### 徳

このように知識を学びながら行いを成していけば、ハディースで言われているように、天国への道が簡単になります。また知識を学ぶ人たちのために、すべての被造物は許しのドゥアーを求めてくれるのです。

### イルムの現実を取り入れるために、

①ダァワ：自分の中にイルムに対する確信や熱意を作り出すために、イルムの大切さやその徳、イルムに関するサハーバの話などを他の人たちに伝えま

す。  
②練習：ウラマーやタァリームのハルカを通して知識を学び、それを実践します。



③ドゥアー：アッラーにイルムの現実げんじつを求めます。実際じっさい預言者よげんしゃさま様ご自身じしんも、知識ちしきを高めるドゥアーを求めるともとにクルアーンの中で命なまじられました。

## ズィクル（アッラーの唱念しょうねん）

### 意味と目的

イルムを通して行といの外面おこなは正がされますが、その内面ないめんを正ただすためにはアッラーのズィクルひつようが必要です。実際じっさいにあらゆるイバーダすうはいこうい（崇拜行為）には、スィファート・イフサーン（つまりアッラーを見ているかのように、かれを崇拜すうはいすること。そしてそうでなければ、かれが自分を見ているという意識いしきをもって崇拜すうはいすること）が求められています。またいつでも私わたしたちの心こころの中に「アッラーが見ている。アッラーが聞いている。アッラーは知っている。」というアッラーの意識いしきとかれへの愛情あいじょうや畏れおそを作り出すためには、アッラーのズィクルをきちんおこなと行たいせつうことが大切です

「信仰しんこうする者ものたちよ！アッラーを沢山たくさんねん念ねんじなさい。そして朝あさ夕ゆうかれの栄光えいこうを讃たえなさい。」  
（部族連合章 33：41-42）

### 徳

預言者よげんしゃさま様はどんなサラートやハッジや断食だんじきなどが一番いちばん優すぐれているか尋ねられ、その度たびに「アッラーのズィクルいちばんが多いサラート、ハッジ、断食だんじき。」と言いわれました。また天国てんごくには8つの扉とびらがあり、その中の1つはザーキリーン（アッラーのズィクルをたくさん行おこなう人ひとたち）のために設もうけられています。そして彼らかれは皆みんなが不安ふあんでいる復活ふっかつの日ひに、笑わらいながら天国てんごくに入はいるでしょう。

### ズィクルの現実げんじつを取り入れるために、

①ダァワ：自分じぶんの中にズィクルなかに対する熱意たいを作り出すために、ズィクルの大切たいせつさやその徳とく、ズィクルかんに関するサハーバはなしの話はななどを他ほかの人ひとたちに伝つたえます。

れんしゅう  
②練習：

i) クルアーンの読誦を毎日定期的に行います。(できれば毎日1ジュズ／パーラ、そうでなければ自分のできるだけ。またクルアーンの読み方が分からない人は、それを学ぶことに毎日一定の時間を費やします。)

ii) (最低でも) 朝晩3つのタスビハート(3番目のカリマ“スプハーナッラーヒ、ワルハムドゥリッラーヒ、ワラーイラーハイッラッラーフ ワッラーフ アクバル、ワラーハウラ ワラークウワタ イッラービッラー”と預言者様へのサラワートまたはドゥルード〔祝福の言葉〕とイスティグファール〔アッラーに許しを請う言葉〕)を100回ずつ唱えます。

iii) 預言者(サッラッラーフ アライヒ ワサッラム)が教えられたマスヌーン・ドゥアーを覚え、日常生活の中でアッラーを念じます。

③ドゥアー：アッラーにズィクルの現実を願い求めます。

## 4. イクラーム・ムスリム

### 意味と目的

私たちはイバーダ(崇拜行為)を通してアッラーの権利を満たすだけでなく、私たちの身の回りの人々の権利(フクークル・イバード)もきちんとも満たしていかなければなりません。そうしなければイバーダを通して稼いだ報奨は台無しになってしまいます。預言者様はこう言われました。「私のウンマ(共同体)の中で一番貧しい人とは、このような人です。彼は復活の日に山ほどの報奨を持ってくるのですが、自分の性格や人付き合いが悪かったために、たくさんの人々が不平を持ってアッラーに訴えます。そこでアッラーは彼らに彼の報奨を持って行くように命じ、彼の報奨はすべてなくなってしまう。それでも不平を訴える人々はまだたくさんいて、彼らは自分たちの罪を彼の許へ置いて行くように命じられます。そうして彼は山ほどの

つみ せ お し ごく なか ほう こ じょせい  
罪を背負い、地獄の中へ放り込まれてしまいます。」またある女性はたくさ  
んのイバーダをしていたのですが、自分が飼っていた猫に食べ物や飲み物を  
あた ねこ し  
与えずに、その猫を死なせてしまいました。そこでアッラーは御怒りになり、  
かのじょ し ごく おく こ じょせい つみぶか  
彼女を地獄に送り込んでしまいました。そしてある女性は罪深かったのです  
が、のどの渴いた犬を見てかわいそうになり、自分の靴下にスカーフを結ん  
いで 井戸の水をくみ上げ、その犬に水を飲ませてあげました。するとアッラー  
かのじょ およろこ かのじょ つみ ゆる  
は彼女にとっても御喜びになり、彼女の罪をすべて許してくれました。です  
から私たちは身の回りの被造物の権利をきちんと満たさなければならないの  
です。ハディースで言われているように、地上の被造物はすべてアッラー  
かぞく のようなものであり、彼らに優しくすることはアッラーのおよろこ  
につな 繋がります。私たちはムスリムとして、最低でも他人に迷惑をかけてはなり  
わたし わたし さいてい たにん むいわく  
ません。預言者様はこう言われました。「ムスリムとは、その人の手と口（の  
あく から たにん まも ひと ひと わたし じぶん けんり ひつ  
悪）から、他人が守られるような人です。」さらに私たちは自分の権利や必  
よう ぎせい ほか ひとひと けんり ひつよう み どりよく  
要を犠牲にしてでも、他の人々の権利や必要を満たす努力をしなければなり  
りません。

そしてアッラーの被造物にはそれぞれの権利や地位があるのですが、その  
なか 中でもムスリムはアッラーにとってとても大きな尊厳と価値のある存在であ  
り、それはカバハ神殿よりも尊いのです。ハディースで言われているように、  
この世の中に一人でも「アッラー。アッラー。」と言う人がいる限り、アッラー  
はその一人を理由にこの宇宙をすべて回し続けてくれます。つまりアッラー  
はその一人のムスリムをそれほど大切にしてくれるのです。また私たちムスリム  
はイーマーン（信仰）の絆を通して、お互いに皆兄弟姉妹です。預言者様  
はこのウンマを1つの身体に例え、その一部の痛みが身体全体に及ぶことを  
しめ 示されました。ですから私たちムスリムはお互いに思いやりを持ち、助け合  
い、団結して行動していかなければなりません。そしてそれは私たちにアッ  
ラーからの大きな慈悲や助けを招くのです。

「信者たちは互いに兄弟である。だから兄弟の間の関係を正しなさい。そしてアッラーを畏れなさい。そうすればあなたがたは慈悲を受けるであろう。」  
(部屋章 49 : 10)

とく  
徳

私たちが他のムスリム兄弟を助けている限り、アッラーは私たちを助け続けてくれます。またそうしてムスリムの権利や必要を満たす努力をすることで、私たちには大きなイバーダをしても得ることのできないような報奨が与えられます。例えばムスリム兄弟の必要を満たすために努力をすることは、10年のイアティカーフ（マスジドに籠ること）よりも優れており、1日のイアティカーフに対して、アッラーはその人と地獄の間に3つの堀を設けられ、それらの堀はそれぞれ天と地の間の距離よりも幅広いのです。

イクラームの現実を取り入れるために、

①ダアワ：自分の中に優れたアフラク（性格）やイクラームの性質を作り出すために、優れたアフラクやイクラームに関する預言者様やサハーバの話、イクラームの大切さやその徳、人々の権利やムスリムの価値などを他の人たちに伝えます。

②練習：他人の地位や権利をきちんと把握し、それに応じた接し方することに心がけます。また自分の権利や必要を犠牲にしてでも、他人の権利や必要を満たすことに努めます。

③ドゥアー：預言者様のアフラクを願い求めます。

## 5. イフラース

### 意味と目的

私たちがいつでも何でも良いことをする時には、人に見せるためやお金や物のためではなく、ただアッラーを喜ばせるためだけに行わなくてはなりません。そうしなければどんなに大きな良いことをしても、アッラーはそれを受け入れてくれないどころか、そうした行いは逆に私たちに反したのとなってしまう。また小さな行いでもイフラースをもって行えば、アッラーは山ほどの報奨を与えてくれるのです。アッラーには何の同位者もないように、かれは純粋にかれのためだけに成された行いのみを受け入れられるのです。そのために私たちは自分で行いのニヤ（動機や意図）を正さなければなりません。

「誰でも自分の主との会見を請い願う者は（またかれに愛される者となることを願い求める者は）、善行に励み、主の崇拜において何の同位者も並べ立ててはならない。」  
(洞窟章 18 : 110)

### 徳

アッラーは良い行いをするニヤに対してでも1つの報奨を与えられ、実際に行いを成し遂げれば、その報奨を10倍から700倍、そしてそのイフラースに応じてそれを清算なしに増やしてくれます。

### イフラースの現実を取り入れるために、

①ダァワ：自分の中にイフラースを作り出すために、イフラースの大切さやその徳、イフラースに関するサハーバの話などを他の人たちに伝えます。

②練習：行いの前、その途中、その後、自分のニヤを確認します。

③ドゥアー：自分のニヤの不完全さに対してタウバ（悔悟）・イスティグファール（アッラーに許しを請うこと）をしながら、アッラーにイフラスを願い求めます。

## 6. ダアワとタブリーグ

### 意味と目的

私たちの預言者ムハンマド（サッラッラーフ アライヒ ワサッラム）は世界中のために送られた最後の預言者であり、私たちのウンマ（共同体）も最後のウンマです。ですからもうこの先新しい預言者が送られることはありません。そこで預言者様はこのウンマにディーンを教えられただけではなく、それを自分たちの中にも、また他の人々の中にも取り入れるためのダアワの努力も、ご自分の生涯を通して教えられました。ですから私たちは自分でもきちんとディーンを守りながら、他の人々にもアッラーのことや来世とディーンのことなどを伝えていかななくてはなりません。このディーンなしには、誰も地獄から救われ、天国へ行くことはできないのです。預言者様とサハーバはそのために深く悩み、多くの犠牲を払い、彼らがその責任を果たしたことで、アッラーは世界中にイスラームのディーンをひろめられました。そして私たちもまた、彼らのような方法と犠牲を通して、また彼らのような良い性質をもってディーンの努力をしていかななくてはならないのです。アッラーは私たちの人生と財産を天国との代わりに買い取られ、私たちがそれらをディーンのために費やせば費やすほど、私たちの人生はイスラームに沿ったものになり、それと同時に私たちの来世もこのウンマも築かれていくのです。なぜならアッラーは預言者様とサハーバのような努力や犠牲を通してのみ、私たちにヒターヤ（導き）を与えてくれるからです。またそうすることで、アッラーは私たちを最良のウンマ、

そしてほんとうの信者と認められ、私たちは永遠の失敗から救われ、真の成功をおさ  
収めることができるのです。

「(預言者よ!) あなたは言いなさい。『これこそが私の道です。私は完全  
な見識と共にアッラーに呼びかけ、また私に従う者たちも(アッラーに呼び  
かけます)。』」 (ユースフ章12:108)

## 徳

アッラーの道で朝や晩を過ごすことは、この世の中とその中に含まれるもの  
のすべてよりも価値があります。

### ダァワとタブリーグの現実を取り入れるために、

①ダァワ：自分の中にダァワの大切さやそれに対する責任感を作り出すため  
に、ダァワの大切さやその徳、預言者様とサハーバによるダァワの道におけ  
る犠牲や努力、そして私たちのこのウンマの責任などを他の人たちに伝えま  
す。

②練習：現世の物質や快樂を犠牲にしながらアッラーの道に出て、世界中  
にディーンを広める努力をします。またそうしてヒジュラ(移住)をして  
きたジャマーア(団体)のヌスラ(援助)をします。そして自分の地域で最  
低でも5つのアアマール(毎日のマシュウラ〔相談〕、2時間半のダァワの  
努力、〔 Masjidと家での〕2回のタァリーム、毎週2回のガッシュト、毎  
月の3日間)を続けていきます。

③ドゥアー：アッラーが自分とこのウンマを、預言者たちとサハーバが  
行ったこの高貴な仕事のために受け入れてくれるようお願い求めます。



アッラーはわたしひとりひとりに現世での人生を1回だけ与えられましたが、それは来世の準備のためのものです。そしてアッラーはこのディーンを通して現世と来世での成功、そしてこのダァワを通してとても大きな報奨や地位や助けを私たちに与えようとしているのです。そこでこれらのスィファートを自分たちの中にも、またこのウンマにも作り出していくために、私たちはアッラーの道に出て努力をしなければなりません。そのためにまず最初に4カ月を費やし、最低でも毎年の40日をアッラーの道に捧げながら、一生このディーンの仕事を続けていきましょう。アッラーが私たちを受け入れてくれますように。アーミン。

## あとがき

\*この文章は子供たちでも簡単に理解することができるように書かれているために、アッラーと預言者様に対する尊敬語が一部省かれています。それは決してかれらに対する無礼さを示すためのものではありません。また同様にハディースの訳は大体的な内容を簡単に表したもので、ハディースの文字そのままの訳ではありません。アッラーのお許がありますように。

\*またそれぞれの性質におけるその徳は簡潔にいくつか書かれてありますが、詳しくは「ムンタハブ・アハーディース」や「ファザーイル・アアマール」などに述べられているハディースを参考にしてください。

